

市民自らの政策を持とう！

第3回個人演説会

戦前戦後の教育に思う

藤村英子（大島の静かな空を守る会）



日時 2013年5月19日（日）14:00-17:00

会場 岩国市福社会館

参加者 11名

人物紹介

藤村英子（ふじむら ひでこ）さんは、戦後主として新制高等学校で教鞭をとって来た。定年退職後は住民運動に参加し、大島大橋を無料にする署名運動で活躍した。「大島の静かな空を守る会」にも入り、全町の住民の署名を集める運動をした。個人としては、朝日、毎日、読売、中国などの大新聞に、膨大な数の投書をしている。これをみるだけでも、この人の思想がだいたいわかる。

はじめに

こんにちは。今日は私のストレス解消のために足をお運びくださいまして、まことに有難うございます。ほんとうは学生や若い人、それから憲法を改正したがっている政治家の人たちの前なら話したいと思っただんです。

でも、今日いらっしゃる方は私よりはるかに多くの知識をおもちですし、立派な活動をしておられる方ばかりですので、恐れ多いと思うんです。私が話しても意味ないと思ったのです。堅く固辞したのですが、やはりお引き受けすることになったのは、今の日本の状態を思うと、ほんと

に黙っておれない気持ちになるんです。心のなかが戦前戦後を知っておりますから、あふれるようにいいたいことが増えているのです。沖縄の問題、原発の問題、従軍慰安婦を含めた日本の加害の問題、岩国基地の問題とか、どれひとつとっても、言いたい思いがいっぱいあります。行政があまりよくないから、言いたい思いが胸にあふれているから、ここで話ししたらストレス解消になると思って、お引き受けすることにしたのです。

立派な方々のまえでお話しするのは恐れ多いので、身が縮まる思いがするのですが、

でもやっぱり考えをかえたのです。ここには86歳の人はいらっしゃらないでしょう。私は86歳ですからね。考えてみれば、井原元市長さんだって私の娘より若いのですよ。そう思うたらね、やっぱりお話ししたいという気持ちになったのです。

20年30年私のほうが長く生きているんだから、それだけ戦争の体験もあるし、みなさん方には体験といっても戦争体験はそうないと思うんです。やっぱり意味がないというより、ないことはないな、という気持ちになってお引き受けすることにしました。今日は教育だけにしぼってお話ししたいと思います。

1 戦争中の教育

私は昔「軍国少女」だったんですよ。戦争がすんだあと、兄がお前は本当にあれを信じていたのか、おまえはバカじゃったんじやの、と言いましたけれど、戦争中はみんな愚民にされたのですよ。小さい時から。日本が戦争をしようと思ったら、30年40年の長い間の教育が必要だったのですね。今の若い人たちに、あの時なぜ戦争に反対しなかったのかといわれても、反対するどころか、すすんで戦争に参加する人間に育てられていったわけです。教育の力というものはおそろしいなとあとから思いました。

どういうふうにして私が洗脳されたかといいますと、小学校へあがるまえからいろんな歌を歌っていました。

ぼくは軍人だいすきよ
いまにおおきくなったなら
勲章さげて剣つけて
お馬にのってはいどうどう
女の私まで、小学校にあがるまえから歌って
いましたし、それから毬をつきながら
いちれつらんぱんはれつして
日露戦争はじまった

さっさと逃げるはロシア兵
死んでも尽くすは日本の兵
5万の兵をひきつれて、
6人残してみなごろし、
7月8日の戦いに
ハルピンまでもせめいって
クロポトキンの首をとる
東郷元帥万万歳

小さいときからこんな歌を歌って毬をついていたのですよ。今考えると「6人残して皆殺し」なんて恐ろしい歌を平気でうたっていたのですよね。

① 教科書

小学校にあがっても軍国主義教育、皇民化教育一色でしたからね。「木口小平は死んでもラッパを口から放しませんでした」て。今の人が聞いてもわからないと思うんですよ。「なんでラッパを口からはなさなかったのか」ときくような、戦争をしらない時代の人ですからね。でもこれは「進軍ラッパ」ですよ。死んでも「進軍ラッパ」を鳴らそうとしたという話です。「すすめ、すすめ、兵隊すすめ」とか、「日の丸の旗万歳、万歳」とか、そういうふうなことばかりで洗脳されていったわけですよ。

② スローガン

戦争がはじまっているいろんなスローガンがありました。

吐くな弱音をスパイは陰に 大島郡に軍艦が着いていて、1艘、2艘、3艘と数えただけで引っ張られたことがありました。スパイとしてね。「(戦艦)陸奥」が東和町の沖に沈んでいたのも、東和町の私ですら知らなかったのですからね。ものをいえなかったんです。沈んだと言ったら引っ張られる時代でしたからね。

武士道とは死ぬこととみつけたり 天皇のために死ぬのが一番の名誉とされていた

わけです。

生きて虜囚の辱めを受けず というのは、捕虜になるなら死を選べということです。これを沖縄へもって行って、集団自決とか、捕虜になるというような事態に追い込んだものですから、大きな被害をうけましたよね、沖縄なんかはね。

贅沢は敵だ 食と衣。質素を宗としたのです。栄養なんか考えたことない。今日は梅干しデー・ごま塩デー、というのがありました。栄養なんか何にも考えない。ただ質素、質素。衣料にしてもつぎはぎだらけ、新しく買うことはなかったからね。質素を宗としていました。

身は鴻毛より軽し みなさんにごぞんじでしょう、この言葉を。けどどいまの人は知らないと思うんですよ、この言葉は。人の命は鳥のうぶ毛よりも軽い。人は一代、名は末代とか言って、人間の命は軽いものだ、天皇のために死んで名を残せということなんですよね。いのちというのは軽いんだから。

花は桜木、人は武士 桜の花は潔く散る、だから軍人は潔く散ってくれということなんですよね。

上官の命令は天皇の命令と心得よ これは上には絶対服従なんですよね。文句はいわれぬのです。

ほしがりません、勝つまでは どんなにたべものがなくなろうと、着るものがなくなろうと、勝つまでは、勝つまでは、とがんばったわけです。

靖国で会おう 「身は鴻毛より軽し」とセットになっているのですが、戦争で亡くなったなら靖国に祀られるといわれていました。学徒動員で学校が工場になって、そのときの第一声で「あなたがたは今日から軍属となりました」といわれたんですよ。そのあとみんなが「私たちも死んだら神様よ、靖国に祀られるんよ」と喜んだもので

す。軍に属するのだから「靖国で会おう」が軍人の合言葉だったのです。軍人は死ぬるときに靖国でお互いに会おう、神となって祀られるのだから、ということだったのです。

私は靖国を思うのですが、靖国神社の参拝は中国や韓国を刺激する、それもあるんですが、私は日本の問題だと思うんですよ。命を粗末にして、靖国を利用した政治家たちは胸がいたくて、あのときはすまなかったと言って参らなきゃいけない、二度と戦争につながるようなこういうものは作らないと言わなきゃいけないと思うんですがね。

滅私奉公 身をすてて国に尽くせということ。

女は従順であれ それから **女に教育はいらない** という言葉があったんです。女は無能力者扱いでした。絶対服従でした。従順だった。文句はいえなかった。

③ 洗脳教育

神洲不滅 日本は神様の国だから、滅びることはないんだといわれました。

聖戦 神様の国が戦争するのだから「聖なる戦い」だということですよ。何のために戦うかという、

大東亜共栄圏 東洋平和のために、そういう名目で戦争しました。

現人神 (あらひとがみ) これは天皇は人間であるけれど、人間の身体をした神様だということです。あの当時は学校に天皇陛下の写真があったんですよ。もしそれが火事で焼けたら、校長は自分で責任をとって自殺していました。たまたま私の父が小学校の校長でしたから、「ああ奉安殿ができてよかった」、といったのを覚えています。火事でやけない石の奉安殿でした。どこでも奉安殿をつくって、まず奉安殿にお辞儀して学校へ入っておりました(注記3)。

神国 日本は神様の国だ、ということです。

神風 もし何かのことがあったら神風が吹いた。元寇のときに神風が吹いた。私は子供の時から神風が吹くと信じていました。(イザという時には神風が吹くということを知っていたのです)。戦争がはげしくなると、町という町が焼け野原になっても、アメリカと戦争しているとき、アメリカへ一回も爆弾を落さんのに、日本はあれだけアメリカがきて爆弾を落されて焼け野原になっているけれども、これで本当に勝つんだろうかと、ひょっと疑問に思ったことがあるのです。疑問に思いながらも、でも日本は神様の国だから、元寇のときに神風が吹いたじゃないか。ほんとにそう思ったんですよ。それほど洗脳されていました。だからオウム事件のときも私はあれを笑うことができなかったです。

八紘一宇 この「天が下」、宇宙ですよ、これをひとつの家として天皇がお治めになる。そういうことなんです。

万世一系の天皇 天皇がこの国をお治めになっているのだ。だからあの頃に、ジヌム スイゼイ イトク コウショウ コウアン コウレイ コウゲン (以下略) 天皇の名前を124代おぼえていましたよ。今は忘れていたけれどね。万世一系の天皇をいただいているというこの「神国日本」ということをたたきこまれたのですよ。そうして「軍国少女」になったわけです。

④ 戦時中何が行われたか

検閲 女学校にはいったとき、寮にはいっていましたが、家に手紙をだすとき、全部検閲なんです。さびしいと書いたら、舎監の先生がもどしてくるのです。さびしいと書いたら、親が心配するじゃないか、書き直せと。だから思うように書けないのです。検閲があるから。来るのも検閲があ

ったんです。友達が学期末になって、手紙がきていたのですが、男名前だったので、早くからきていたのにそれを渡さないで、学期末に帰るときに渡して、これはどういう人かといわれた。それは友人をかわいがってくれた先生だったのです。手紙をみたら病気になっていて、そのときはもうなくなっていたのだそうです。だから何故すぐに渡してくれなかったのだろうか、そのお友達がすごく悔やんでいました。すべて検閲でしたから。

供出 何もかも供出させられたんです。金目のものは、金属、貴金属など、供出なかったら非国民でした。私もあのころ軍国少女でしたから。母が大きなダイヤを持っていたのです。母の妹がアメリカで成功して金持ちになっていて、日本に帰ったときに大きなダイヤを母にくれたのです。ほんとに見事なダイヤの指輪でした。それを母がもっていたので、それを出さねば非国民よ、としきりに母を責めたのです。「おかあさんは非国民だ」といって。これを出さりょうかいというのを、とうとう出させたのですよ。「あんたがそういうなら、まあお国のためだから出そうか」と出したのですよ。母はその後なんにも言わなかったから、なお心が痛むのですよ。あのダイヤはどこいったかと思うんですよ。

あのころ

灯火管制 というのがあって、豆電球に黒いカバーをかけて、下までおりるカバーがあったんです。ちょっとしか光がないのですよ。それでも隣組の人がまわってきて、漏れてるよと戸をたたかれたことがありました。終戦間近かですよ。終戦になったとき、電気がつけられるのがいちばん嬉しかったんです。

カタカナ語禁止 私は英語がなんにもできないから劣等感をもっています。当時、英語は敵国語だということで時間を減らさ

れて、手芸と英語、みんな手芸のほうへいきなさいといわれ、分かれてならったんですが。英語はほとんど習っていないんです。「アイ アム ア ガール」ぐらいしかならってないんです。なんにも通用しない英語。野球の「ストライク」というのは「よし」といっていたのです。ズボン下でも「ズボン下」といわないで「股下（こした）」といっていました。ズボン下を縫っていたのですが、「股下を縫う」といっていました。「ポケット」ですら外国語だから「ものいれ」になっていました。カタカナ語は、あれを使ったら非国民ということになっていたんですよね。

集会結社の禁止 集会もいけないことになっていました。

配給制度 米も配給。食糧切符がないと買えませんでした。米、塩、砂糖、みんな配給制度でした。切符がないと買えない。衣料品は「衣料切符」がないと買えませんでした。でもしまいには店そのものがなくなっていました。

パーマ禁止 贅沢だということで禁止。もちろん化粧するのも非国民といわれました。

衣服は国民服、標準服に 男子は詰襟の国民服。背広なんか着たら非国民。女子は標準服、下をもんぺにして。それを着た姿の写真がいっぱいあったのですが、おとどし、写真を借りに来た人が持ってかえって、返してもらえなくなって、誰に貸したかわからなくなって。みんなもんぺをはいていました。

竹やり訓練 昭和 20 年になってからですけれど、雪の降るなかで竹やり訓練をずいぶんやらされました。「エイ」と突くのですけれども、声が小さい、もっと大きな声で「エイ」と。もし敵がきたら、これで敵を突いて自分も死のうと、本気で思ったのですよ。おかしいですね、今考えたら。

学徒動員 中学校、女学校、みんな学徒動員で軍需工場にいかされました。岩国でも中学校の生徒が岩国で空襲でなくなっていました。女学生でも光の工場でなくなりました。みな動員で軍事工場にいかされた。大学生まで学徒出陣で戦争に駆り出されました。

勤労奉仕 農繁期に農家へ手伝いに行くのです。実際、女学校のときからそれがありました。女専のときは、私は山口におりましたから、しのめとか、佐々並とかああいうところへ、農家へ泊まり込みで手伝いにいったのです(注記 1)。3 日か 4 日泊まり込みでいっていたのです。農家は軍人に手をとられて、手が足りないから、学生が勤労奉仕に出たのです。

そのときおもしろかったのは、みんな行った時はたらふくたべられたんです。ご飯が。帰ったらたべられないというのがあるから、みんな茶碗に 5 杯たべたのを覚えています。私が 5 杯たべたといったらみんな笑うんですけれど、私だけじゃない。みんなが 5 杯たべたのですよ。帰ったら食べられない、そういう思いがあったんですよね。もちろんおかずなんかありませんよ。つけものですよ。でもご飯だけは十分食べられたんですよね。あのころはごはんなんか食べられない時代でしたからね。

繰りあげ卒業 女専で 3 年になったら、2 年半で繰りあげ卒業だったんです。終戦になったとたんに「繰りあげ卒業」でした。ほとんど作業、動員とかで、勉強してないままなんです。だからよいよつまらんですよ。勉強してないんですから。戦争が終って、今から勉強できるという時は卒業だったのです。

国家総動員法 国民精神総動員運動 大政翼賛会 これはみんなで国を守る体制。国を盛り上げて行く体制。それにそぐわんものはみんな「非国民」という言葉で片づ

けられました。

女子挺身隊 学校を卒業したらみんな徴用、軍事工場へいかされたのです。強制的にね。家におられなかったのです。

女学校出たらすぐ先生になれたのです。小学校の先生に。そういう時代だった。徴用や挺身隊にとられるよりは、先生になったほうがいい、というので、私のクラスも半分が先生になっていました。

疎開命令 これは都会ですよ。疎開させられましたね。

言論取締法 それこそなんにもいえなかったわけです。言論が取り締まられただけではなく、大久野島なんかは毒ガスをつくっていたから、地図からまで消えたんですからね。台風がきても情報もなんにもなかったですね。(注記4)

小学校は国民学校へ 小学校は「小学校」といわずに「国民学校」。小学生は「小国民」といった。とにかく国のために、ということなんです。

徴兵制 赤紙といわれているんですけど、男子21歳になったら、あの頃は数え年だったと思いますが、21歳になったら徴兵検査というのがあったのです。甲種、第一乙種、第二乙種、第三乙種迄あったと思う、一番最後が丙種でした。よいよ役に立たないのが丙種。うちの兄は丙種でした。身体が私に似て小柄だったのです。丙種だから兵隊にでることはないといっていました、終戦の年の6月にととう召集がきました。

その「赤紙」のことですが、このあいだ「赤紙」のことを投書したのです。女専のときに、一時軍隊司令部に動員でいったことがあるのです。そのときに「召集係」というのがあって、私「召集係」に配置されました。倉庫に在郷軍人の冊子がおいてある、その倉庫からその冊子をもってきて、召集をかけるのをやっていたのですよね。私は兄がまだ召集されていなかったから、

兄の名簿をやぶったら兄が召集にかからんですむと思って、いくらでも倉庫には入れたから、倉庫にはいったんです。大島郡ですが、みたら兄の名前がちゃんとありました。在郷軍人の名前で。それを破ろうと思ったんですが、もしばれたら、死刑になると思い、やっぱりよう破れなかったのです。

それから何十年たって、クラス会があったとき、「あのときに兄の名簿を破ろうかと思ったがようやぶれなかった」といったら、友達が「うちは破ったけえ、兄は召集がかからなかった」といいました。もう一人の人は、「私は上司が私をかわいがってくれていたから、あんたのお父さんはどれかというから、これだといったら、パッパと消してくれたので出ずに済んだのよ」といいました。天皇陛下に召された召集令状がこういうことだったのかと思ったものです。

このあいだ、新聞にそのことを書いていたら、そしたらまるっきり変えられたのです。いまごろは出しても変えられるのですから、腹がたってしょうがないんですね。国のつごうのよいように変えられるのですからね。新聞ですらそうですからね。マスコミまで戦争を知らん人になった、と思いました。

私が言おうとしたのは、愛する夫が、大事な息子が、大事な父が、否応なしに赤紙1枚で愛を引きさかれていった。それが天皇の命令だからというので文句もいわずに行ったのですが、その召集令状がこんなありさまだったのか、ということを書いたつもりでした。ところがそれが全然ちがっているのですよね。「あの時代でも家族愛がまさっていたのだな」としてらるんですよ。そうじゃないですよ、私の思いはね。そういうふうに変えられている。

もうひとつ変えられたのは、あの頃に自分の父親を消してくれと言えるものですか。それこそ非国民ですよ。そんなことを言

おうものなら。それを「上司に頼んで父の名前を消してもらった」に変えているのですよ。それは私は文句いいました。それでも「消してもらった」にしていました。消してもらったんじゃない、消してくれたのですがね。「消してくれ」なんていえる状況ではなかったのです。そういう時代を知らなくなったなと思いました。

余談になりましたけれども、こういう風なことがおこなわれていたのですよ。

2. 戦時中の体験

「戦時中の体験」ですが、話しだしたらきりがないほどありますから、ちょっとしばって言います。

ともかく飢えたのです。農家はあつたと思えますけれど、だんだん食が不自由になって、とにかくしまいごろには、食糧配給ですけれども、米がほとんどないんですよ。

「雑炊」とか、粟のご飯とか、大豆かすのご飯とかでした。封筒にのりがついてないから、ご飯粒で糊をつけていたのですが、粟のなかからご飯粒をさがした覚えがあるのです。だからおなかがすいてたまらないのです。休みになると農家へ行って、芋をわけてください、といったら、わけられないという。ひとつでもいいから、といったら、小さい芋をほいと一つ投げてくださいました。ひとりで行くのははずかしいので友達と行くんですよ。「私は乞食ではないのに」とものすごく情けない思いをしましたけれど、食べたい思いが先です。芋がほしかったのです。火がないから、帰って生の芋をかじったのです。

また、今日は「みかど食堂」が開くという。山口には「みかど食堂」というのがありました。そういう情報がいいると、みんなが4キロの道を宮野から山口ま暑いなかを歩いて行くのです。長い列に並んで、もうすぐだということまでいったら売り切

れといわれるのですよね。泣くにも泣けない気持ちになったことがありました。

遠足がありました。楽しい遠足ではない、鍛練遠足というのです。あるところでは石をもって遠足するのも行われたそうです。鍛練ですから。山口市の方べん山というのがあるのですが、その山へ鍛練遠足にいったのです。寮にいた時です。夕方これがあしたの朝の弁当ですよ、と配る。それを晩にみんなたべてしまう。翌朝、これは昼の弁当ですと小さいおむすびが配られる。そういうお弁当をもらうんです。これも朝たべずにはおられないのです。山に登って食べないでおりるのです。へとへとになって。通学生と仲がいい人は通学生にわけてもらいます。

いつかおやつが出たことがあります。学校でジャガイモをつくっていたんです。今日はおやつがでる、というニュースがあるのです。ジャガイモが3つ4つ配られる。ジャガイモのおやつです。薄い皮をむいてたべる。じゃがいもがこんなにおいしいものかと、あのときは思いました。好ききらいは贅沢だと思ふ。本当に飢えたら何でも食べるようになります。ちいさいときから人参もきらい、大根もきらいでしたが、あのときからみんな食べるようになりました。

私は山口におりましたから空襲にあわなかったのです。最後の半年間は下宿したのです。日赤の前に下宿していました。空襲はないけれど、空襲警報はあるのです。空襲警報がなると日赤の看護婦さんが担架で病人をのせて、ふるくまさまという森があるところまで毎晩運ぶんです。私たちも一緒に同じところへ行くんです。逃げるんです。私は晩から朝までほんとにねたことはないんです。枕もとに防空頭布をおいて、モンペをはいたままで、防空頭布をかぶって、防空袋というのがあって、それをだいていくのですよね。ゆっくり寝るといふこ

とはなかったです。空襲がなかったところでもそうだった。空襲のあったところはそれはむごいものでした。

あのとき、大島郡のこの田舎でさえも空襲があって、私の先生がこっぴ微塵になったんですよ。久賀の女学校の生徒が阿弥陀寺に疎開していた。学校が海軍兵学校にとられていましたので、空襲警報がなったから、数学の大浜先生が「みんな中へ入れ」といれて、そこへ編隊がきて爆弾をおとされたので、大浜先生は直撃を受けてこっぴ微塵になったそうなのです。田舎でもそういうことがありました。

「機銃掃射」というのもありました。久賀の薬局の御夫婦が両方がやられて、片足づつになったという。それも本当の話だそうです。私の友達が浮島小学校の先生をしていたのです。そのころ、浮島は電気がきていないんです。だから空襲警報が鳴らない、電気がないから。敵機がきてからわかる。防空壕へみんなにげこんだ。防空壕にはいるのを見られて機銃掃射したのだそうですよ。爆弾じゃないから大丈夫でしたけれど、恐ろしい目にあったそうです。B29が去ってから出てみたら、防空壕のうえにこれくらいの弾がいっぱいささっていたそうです。

浮島は山の上に学校があったそうです。部落がふたつにわかれ、両方から行けるようになっていました。その後、机と腰かけをおろして、部落毎に公民館で授業するようになった、そういう話をしていました。この田舎でさえも空襲があったということです。町はすごいさんざんな目でしたよね。東京なんかは3月10日の大空襲なんか、町という町はすべて焼き尽くされましたよね。

あのころ一番不便だったのは、電車になかなか乗れなかったことです。私が経験したんですが、一度家にかえって、また山口へいくとき、朝早くでて8時ころに大島に

ついたので、1列車で何枚という制限があって、切符が買えないんです。ながい列になって、なかなか買えない。とうとう朝勤めに行く人が行って、それを見送って、ずっと延々と待って、晩の5時すぎにその人が帰ってくるまで待って、並んで待つことがあります。やっと切符が買えて、晩になって行ったら、宮野までいけなくて、山口止まり、そこまでしか列車がいかないんです。山口の先生のところへ泊ったことがあります。

私がお話をしたら、友達は光へいくのに1日半かかったよといいました。やっぱり切符が買えなかったからね。そのときおもしろかったのは、わたくしは標準服をきていたから切符が買えたけれども、標準服を着ていなかったひとは非国民だからということで切符を売らなかったよ、という話をしてました。

室積に学校があったのですが、光の駅において、バスにのったら途中で動かなくなって、木炭自動車でしたから、おしたりへしたりして室積まで行く、寮に着いたのは夜中の12時だったそうです。そういうふうには、ほんとうに不便でした。

今だったら、下着でも何十枚ももっていますが、あのころは売るものがなにもない。替えがない。だからものすごく不便をしました。それでも「欲しがりません、勝つまでは」と。苦しかったですよ。苦しかったけれども、戦地の兵隊さんはもっと零下20度の酷寒のなかで私達のためにはたらいしてくれているのだと。私は軍国少女でしたから、兵隊さんに申し訳ないといって、ひと冬じゅう靴下をはかなかったことがある。「がんばれ」ができてから夜中にねむれなかった。それでもお国のため、「ほしがりません、勝つまでは」とがんばって、軍国少女になっていったのです。

3. 戦争が終わって

戦後「洗脳」がとけたんです。何によってとけたかといいますと、やっぱり事実がだんだん明るみにでてきたからです。それと、神様の国が負けることはないと思っていたのが、本当は負けたじゃないか。東洋平和のための戦争だったのに、そうじゃなかったじゃないか。いろいろわかってきて、そのときに「憲法」ができて、いまは「憲法」を邪魔にして、そぐわなくなったというけれど、私は世界に誇る「憲法」だと思いました。

当時を知らん人が、アメリカから押しつけられたというけれど、そうじゃないんですよ。草案はアメリカが作ったにせよ、日本の自由民権思想を参考にしながらつくっているのですからね。それが公表されて、巷で賛否両論が戦わされて、国会では新しく選出された議員によって、そのとき女性の議員が随分増えたのですけれど、その人たちによって半年間議論をたたかわして、満場一致で決めたものなんです。だからあの戦争の反省のうえにみんなが選んだ憲法だったのです。

それを押しつけられたといいますけれども、あの「憲法」ができたことが嬉しかったことは忘れられません。あの苛酷な戦争は未来永劫することはないということでした。

それにもとづいて「教育基本法」ができたのです。喜びがわきあがったような気がしました。それまでは国のために死ぬ、国のために犠牲になれ、命を捨てなければいけなかった。それが、人間として幸せになる権利があるのだということ、そういう「教育基本法」だったから、これこそが人間が人間として幸せになる教育だと思ったんですよ。わたくしの投書の一番最初「教育基本法で洗脳が解けた」とありますでしょう。ちょっと読んでみます。

「戦前、戦中、戦後を生きてきたもの

として、いま私は、行政に携わる人たちに言いたい思いが胸にあふれている。教育によって洗脳され、「軍国少女」だった私の洗脳が解けたのは、戦後教職に就いて知った教育基本法のおかげだった。

これこそが人間が人間として幸せになる教育だと思った。再び私の受けたような教育であってはならない。真実を知り、正しい判断のできる人間に育てるのが教育の目的だと思った。希望がわいた」（赤旗 2011.6.8）

こういつてかいてあるでしょう。ほんとうにそのときそう思ったんです。人間は幸せでなければいけないんだ、そういう思いでした。同じ事を、5枚目ですかね、「教育基本法の本質に帰ろう」というのをだしています。中国新聞に出した投書です。

「私は戦前の教育を受けたため、当時は、日本の国に生まれた誇りを持ち、天皇のために死ぬことが一番の名誉だと信じていた。だが戦後になって、皆の気持ちをこのように燃え上がらせたものは何だったのかと思った時、教育のちからの偉大さ、恐ろしさに気付いた。そして教育基本法ができた時、これこそが人間が幸せになる教育だと思った。命が尊ばれ、平和を愛する人をつくるための教育となったのだから。その教育を実現するには、何が本当に正しいことかを判断できる人間を育成しなくてはならないと思う」。（中国新聞 1998.6.13）

と書いてあります。「教育基本法」ができたときの嬉しさをわすれられない気持です。そういう教育をしなければいけない。いまだにそう思っているわけです。これから私の闘争が始まります。

4. 再び国家統制の道へ

民主教育になったのもつかの間だったのです。朝鮮戦争で、またもと来た道へ逆もどりです。手はじめは教育委員の任命制だったのです、お手元のプリントに「戦前へ逆戻り」というのがあってでしょう。国家統制への道なんですよね。

教育委員が公選制から任命制に 教育委員を選ぶのに、みんなが選ぶというのから、上が任命することになったのです。しかし中野区は頑張ったんです。「準公選制」というんですがね、それを行ってきたのです。任命制になったときのことはよく覚えているのですが、昭和31年ごろ、東大総長、ほか各大学の学長が、こぞって反対して、教育の自治がくずれるということで反対しましたが、その反対をおしきって当時の、今の自民党でしょうけれども、警官隊を導入して、怒号のなかできめられたんです。教育の自治がくずれていくことになったのです。そのとき中野区が頑張ったのです。中野区が頑張ったのに、またそれが破り捨てられようとしているときに、私も抵抗としてこれを守らなきゃいけないということでやりました。それが別紙です（注記2）。でもやっぱり押し切られてしまったんですがね。中野区はすごく頑張ったんです。でも権力の前で教育の自治がくずれていったわけです。

教科書の検定制度 これがまた問題です。検定制度だとやっぱり国の都合のいいようになるので、教育大学の家永先生が、これじゃあいけないというので、家永裁判で32年にわたる闘争をしたんですが、真実を教科書にのせなきゃいけないというので、家永さんががんばった。そのとき私はずいぶん投書したのですが、投書の5枚目に、上から2番目の「教科書検定で事実まげるな」というのをしていますね。1998年にね。ア、これは家永裁判のあとをついだ高島先生のことです。

その下が家永教科書裁判です。最高裁が8月29日、初の違法判断をくだしました、というのがありますね。家永裁判の結果、731部隊のことも（注記5）、従軍慰安婦のことも、南京大虐殺のことも教科書にのるようになったんです。ところがそれも束の間でした。なぜかという、今の安倍さんなんか、自虐史観とって、自虐的だといって、新しい教科書を作る会なんかのたちあげをやっている。出版社が戦争を美化する教科書を。ほんとうに歴史を知らない人たちができると思うんですよね。教科書会社は採用してもらわなければいけないから、自身が自主規制するようになって、戦争の真実がのらなくなったわけです。日本の学生は歴史を学ばないのですかと、よそからの留学生にいわれるそうですけれども。歴史を知らないことになってしまうと思うんですよね。

教科書裁判は高島さんがあとをついでやっていたけどね。だんだんおかしい方へいっています。教科書へのらなくなっただけでなく、南京の虐殺は数があわないからでっち上げだとか、うそをいうようになったですよ。

教師への「勤務評定」 が行われる。国家統制がはじまったわけです。上が勤務状態の評価をつけるわけですよ。

全国学力テスト これが勤務評定と関係があるわけですよ。その学校が成績がよかったら、その先生の勤務評定がよくなるんですよ。実態はどうだったかという、全国一になったところは、田植え、間引きがおこなわれた。田植えというのは〇×式だから、間違った答えに先生が指をさす。（指の形が田植えに似ている）。間引きというのはできない生徒を休ますのです。そうすると成績が上がり、先生の勤務評定がよくなる。そういう弊害が出はじめてやまったのですが、また始ってますけどね。

またいたずらに管理職をふやすんですよね。**2人教頭制**とか**教科主任制**とか、そういう管理職がふえると、疑心暗鬼になりますよね。下の者がいたずらに仕事が多くなるのですよね。

教育課程の改訂 企業の要請に沿った物言わぬ人間に育てようとする。

新任教員の研修 組合にはいらぬようにする。上の言うままの教師を作る。

教科書選定制 今でも思うのですが、昔は現場の教師が教科書を選んでいましたよ。ところがいまは現場の教師が手をだせなくなって、教育委員が選ぶようになった。もっとひどいものになると教育長が選ぶ。今そういうようになりつつある。

「日の丸」、「君が代」の強制 なんで国歌・国旗を大事にしないのかというかもしれないけれども、あのころのことを思ったら、「日の丸」は侵略のシンボルでした。南京陥落、北京陥落など、そのたびに日の丸をうち立てていくわけです。銃後ではそのつど日の丸の旗を振って、旗行列をする。勝った勝ったでね。君が代、これは君主政治のあらわれですから。全く自由がなかったあのころを反省したら、君が代の強制などできないと思うのですけどね。反省がないんでしょうね。

職員会議 今は校長の権限。話し合いよりも校長がきめる。教師がいたずらに多忙になっていったわけですよね。

教師が多忙になり 折角教師になっても「うつ病」になる人が多いというのは、あまりにも多忙だからと思うのですよね。生徒との関係で多忙ならいいのですが、管理職がおおいから、報告物だとか、研修せよとか、生徒と直接関係ないような仕事がふえたと思います。今思うのに、私は30年同じ学校につとめたのですが、初めごろは生徒とかかわりがあり、いつも生徒と話ができた、しかししまいになるほどだんだん余

裕がなくなってきたんです。

あのころ就職係でした。報告せいというのがくる。リクルート社から、どういう企業から求人がきたか、どういう職種に何人応募するかということなど、それこそ煩雑な報告書を出さなければいけないのです。だからそれに明け暮れて、生徒との就職相談なんか、話す間がない。それほど煩雑な仕事をもってこられるのです。なんでこんなことをしなければならないのか。やめてからわかったのですが、戦後最大の収賄事件というのがあった、リクルート社の江副浩正が政治家90人にリクルートコスモスの未公開株を贈っていたのですよね。賄賂をもらった政治家たちはリクルートがりっぱになるように後押ししたのですよね。だから現場の教師に仕事をおしつけて、進学情報とか就職情報とか大きな本をいっぱいだしていたのです。リクルートはふくれあがったのですよね。その時賄賂を贈った江副浩正というのが、教育関係で権力のある職場についていたのですよね（注記6）。そのとき、渡辺ミッチー、今の「みんなの党」の渡辺さんのお父さんですが、あの人が「なんの迷惑をかけたか」と言ったことがあったんです。私は学校をやめたときだったですがね、まあ大迷惑よね、リクルートを発展させるために、私はどんだけ苦労したか。そういうからくりがあったのですよね。

今はそういう戦前への逆戻りによって、ものいえぬ教師によって、生徒も気ばかり読んで、批判精神がない子供ができつつあると思います。昔は安保反対でずいぶん学生がたちあがりしましたが、今はたちあがらないのですよね。そういうことなんですよ。

5. 私の抵抗

それから私の抵抗がはじまるんですよ。国家統制の法律ができるたびに、私は信念

があつてストをしました。ストするたびに生徒に言いました。生徒も先生がんばって、とっていました。とうとうしまいになつてもやりました。だから煮ても焼いても食えない教師でした。30年同じ学校におれたのもそのためだったのです。あのころ長野県がうらやましかつたんです。私はストをやるたびに処罰をうけるのです。給料があがらんし、不当な目にあうのです。一番生徒のことを思う先生がよ。長野県はおなじことをしても、先生が処罰を受けんというのです。なんでかと思つたら、長野県は全員がストにはいるから処罰できん。羨しかったです。

山口県は歯がゆかったですよ。だんだんストにはいらなくなる。おまえはそんなことをしたら上にあがれんよと。これではやれんようになりますよね。私は平気でやりましたけど。抵抗ずいぶんしましたから。大体30年で功労賞をもらうんですけど、私はいつまでたつてもくれないのですよ。35年たつてやめる時になつて、校長が「すまんがもらつてくれ」といつてきました。私は貰わないのが名誉だからといいましたが、同僚が「なんであんな人のいい校長を困らせるのか」といいました。もらったれ、といいます。もらったのはもらったのですけどね。この間、田中さんが芥川賞をもらったとき、もらつてやろうか、といいました。あれを思い出しました。(注記6)

抵抗は学校をやめてからもつづくわけです。学校をやめてから私は「沖縄の会」というのにはいり、1カ月に一ぺん勉強させられました。2年に1回外国の戦跡をたずねていく旅行。韓国、中国、台湾、東南アジア。そして復帰後の沖縄。あいだでは短い国内の旅行。被害者に出あつたり。そういうことを20年つづけたので、だんだんわかつてきました。だからいつまでも抵抗がつづくわけです。この国のすることに対す

る抵抗が。

辞めてから今度は投書です。ところが投書をしらべてみたら、一番沢山載つたのはイラク戦争の前ごろです。イラク戦争期に載らなくなったのです。よっぽど上手に柔らかく書かないと載らない。載つても変えられるのです。載つてもせいがないことがあります。私達の読者が出す投稿でさえも手を加えるんだから、一般のマスコミ、新聞は推して知るべしだと思います。みんなが本当のことを知らなくなるのはあたりまえだと思います。この教科書問題でもだしましたけれど、こんな隠ぺい歪曲をした教科書を未来のある子どもたちにもたせてはいけないと。そこの一番肝心なところを全部へずつて(削つて)いるのです。教科書問題でもだしましたけどね。原発問題でも「祝島の人たちがまっとうに生きようとする」と書いたのが「海に生きよう」になっているのです。寿岳章子さんが亡くなったとき、投票権、選挙権ができて、これを寿岳章子さんがすごく喜んだのをおぼえているのです。寿岳さんが選挙前になくなられたのです。だから「寿岳さんがおられたら、憲法を守る一票を投じただろう」と書いたら、そこを変えているのですよね。(注記8)

Chuuki 「信念にもとづいて投票したであらう」となっているのです。都合の悪いようなことは変えているのです。抵抗はつづけていますけれど、腹がたつて腹がたつてもう出さんぞと。しかし出さないと具合がわるいのじゃないかと言われてたり、楽しみにしていると言われてたりで、今も抵抗をつづけているのです。

6. 戦前回帰の道へ

いままた戦場への道へと歩んでいると思います。そのやり方も狡猾といいますか、わからぬように。昔はあからさまに戦争に向かつていったのですが。消費税を導入し

ようとするとき、

税制改革 という名前でやろうとしました。「消費税」は貧しい人ほど負担が大きくなる税です。3%の消費税を導入しようとしたとき、みんなが反対したら、中曽根さんが、「消費税」は導入しない、「この顔が嘘をつく顔にみえますか」といいました。そしたら、「売上税」だったか、名前をかえてだしましたよね。福祉のために使う、といながら、実際に福祉に使われたのは、たしか3-4%だったと思います。

選挙制度改革 大政党に有利な小選挙区制の導入です。「改革」といったらいいようにみえますけれど、わたくしたちの声が届かなくなるのだ、と思います。

今でも覚えているのですが、橋本首相だったのですが、「今後5年ないし10年の間に普天間は返還します」と言いました。ああよかった、普天間基地はアメリカに帰るかと思いました。その言葉どおりにとればそうでしょう。すごうれしかったんです。ところが同じ沖縄でもっと強大な基地を、同じ県内に作ろうとしている。だから返還ではなかったのです。

岩国沖合移設 だってそうですよね。沖合移設という言葉ですが、あと返さないのですから、事実上の大拡張です。

ガイドライン法 「戦争協力法」といったらみんなが反対するから、わけのわからないことばで。

国際貢献 この名のもとにアメリカの戦争に協力することだったのですね。

周辺事態法 これもアメリカの後方支援のことだった。

障害者自立支援法 いまはどうなったんだろうか。支援どころではなかったですよね。

通信傍受法 国による盗聴法といったらわるいから、「通信傍受法」。

日米安全保障条約 これは落合さんが書

いたものを盗んだんですがね。日米安全保障条約は、日米危険保障条約だ。みんなアメリカが日本を守ってくれるという。じつはアメリカが危険にするのです。基地があるからあぶないんです。米国で同時多発テロがあったとき、岩国でいちやく基地の警護が堅くなったですよね。危険だから、基地があるからね。日本を守るためのものじゃないと私は思います。どこへも戦争に行く、そのために日本を利用しているんだから。アメリカの議会でもそれを問われて、「日本を守るためのものじゃない」と証言した人がいましたよね。日本ほどあまい国はない、おいしい国はないですよね。アメリカにとって。沖縄が復帰するとき

核抜き本土並み という言葉がはやったですよね。沖縄の人は日本に復帰したいという気持ちがあったんでしょね。ところが復帰してみたら、本土並ではなかった。密約がばれて嘘ばかりだった。また跡地をかえすのに、日本が費用を負担するとか。いろんな密約がありましたよね。このあいだ山崎豊子原作の「運命の人」という映画がありましたよね。密約の、有名になったですよね。

こういうふうな言葉で、数え上げたらきりがありませんけれども、たとえば愛宕山に米軍住宅をたてるのでも、初めから270戸といったら、そんなに莫大な金をかけて270戸たてるのかとみんなが反対するから、本当は何千戸でしたか、いるところを、将校のいる家だけだから270戸だという言い方。それなら少なくともよいと思わせる、その言葉の言い方ですよね。軍事予算でも「・・・におさえた」といういい方ですよね。ふくれあがっても「これだけに抑えた」という言い方。

国民総背番号制 これは「背番号制」といったら言葉の感じが悪いから **マイナンバー制** といいますよね。なんとなしに言葉

によって巧妙に巧妙に慣らされていて、憲法を変えたいほうが多くなっていることはゆゆしいことだと私は思う。戦争を知らない政治家たちによって、そういうようになっていくのはゆゆしいことだと思います。

7. この過ちをくりかえさない為に

だからこの過ちをくりかえさないために、私たちは何をしたらいいか、ということになるのですけれど。

私は沖縄の伊江島へ行った時、阿波根昌鴻さんという、101歳で亡くなられた方、その方はなくなられたのですけれど、あと謝花悦子さんという方が話されたことがすごく印象に残っています。何をいわれたかという、「戦争するためには国民を愚民にしなければいけない。みんな愚民にさせられた。私は愚民だったんですよ。沖縄の人たちもみんな愚民にされた。だから集団自決して、捕虜になったらこんな目にあう。それをみんな信じて、政府のいうとおりにした。だから尊い生命がいっぱいなくなった。本当のことを知らなければいけない」ということを言われました。「平和の原点は学習です」とあのとき言われました。ほんとうのことを知らなければいけない。

この間、アーサー・ビナードさんの話をきいた。アーサー・ビナードさんは「平和とは、戦争のペテンを知って活動することだ」と言われました。なるほどと思いました。澤地久恵さんがよく言われるのは「うかうかするといつのまにか国にだまされていますからね。だまされないようにしましょうね」ということなんですよ。私たちは、真実を知りようがなくなっているんですよ。難しいことなのですが、やっぱり勉強しなければいけないと思います。今政府のやっていることは、従軍慰安婦は証拠がないと言う。でも証拠はいっぱいあるんですからね。従軍慰安婦と会いもしないで、

あんなことを安倍首相なんか言ったり、政治家は本当

に歴史認識がたりないと思うんです。だから私は、皆さんのようないい活動をしていらっしゃる人の前よりも、安倍首相の前で言いたいと思うんですよね。

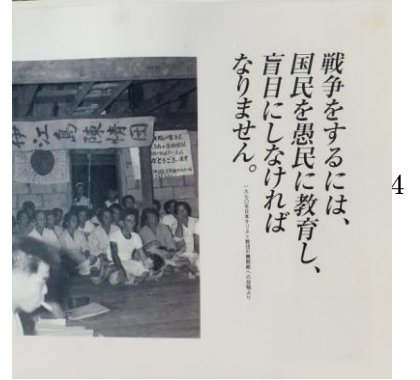
伊江島へ行ったとき、こんなカレンダーをだしていたのです。いいことがかいてあるのですよね。「いまやっている学校の勉強は卒業証書をもらうための、自分がよくなればいいという勉強。それも大切だが、もっと大事な勉強は平和学習、人をしあわせにして自分も幸せになるための平和学習をしましょう」。

「戦争をするには国民を愚民、盲目にしなければなりません」。まだいい言葉が一杯あるのですよ。まだいいことがいっぱいあるんですが。伊江島でこういうカレンダーを出している。どれもこれもみんないいことがかいてあるのです。「戦争は支配者、権力者、財閥とその手先によって準備されます。これらの階級のひとたちは、戦争がおきても戦場について殺したり殺されたりすることはありません」と書いてあります。自分たちは決して戦争には行かないから、戦争をしやすいように変えようとしているのだと思います。

戦争は大企業にとっては際限のない儲けにつながる。だから大企業から応援をうけて、献金をもらってする政治家は、大企業によかれと思うことをする。献金をなくしようとしても、抜け穴をつくってなくならない。それだけ金がほしいんでしょうかね。

わたくしたちは賢くなって、戦争をさせないためには、みんなが反対すること、反対をつらぬいていきたいと思うんです。

ありがとうございました。



注記

1. 女専＝山口県立女子専門学校。
2. たとえば下記は中野区議会自民党に出したものです。(1993年)
 “1956年、教育委員を公選制から任命制に切りかえようとしたとき、東大総長ほか各大学学長がそろって反対声明を出しました。
 「任命制にするということは、民主教育制度を根本的にかえるもので、教育に対する国家統制の復活を促す傾向がはっきりしているのは容易ならぬこと」と。法案は警官隊を入れ、怒号のなかで採択されました。しかし中野区は区民によって自らの手で、教育の自治をまもり抜いています。これを奪おうとする者に深い憤りをもって抗議します”。
3. 奉安殿(ほうあんでん) 奉安殿とは、戦前の日本において、天皇と皇后の写真(御真影)と教育勅語を納めていた建物である。御真影の下賜が始まった時期は、教育勅語が制定された後の1910年代であり、奉安殿の成立もその時期と推測される(小学校の奉安殿建築は1935年頃に活発化)。『ウィキペディア・フリー百科事典』「奉安殿」(2013.6.10)
4. 言論取締法 正しくは「言論出版集會結社等臨時取締法」(1941年)
5. 731部隊 第二次世界大戦中、生物兵器の研究の一環として、人体実験をしたとも言われている。別称「石井部隊」。『ウィキペディア・フリー百科事典』「731部隊」(2013.6.10)
6. 江副浩正(1936-2013)大阪府出身。リクルート事件との関係で、東京地裁で執行猶予付き有罪判決。
7. 田中慎弥(たなか・しんや) 山口県生まれ。新潮新人賞、川端康成賞、三島由紀夫賞、芥川賞を受賞。
8. 寿岳章子(1924-2005)国語学者。「憲法を守る婦人の会」の運動に参加し、生活者として住民運動をした。『朝日人物事典』など。

II 自由討論

藤川 戦前への逆戻りというのがあります。日の丸、君が代の強制というのがある。僕は戦後生まれですが、「日の丸」は不可だな、というところ。「君が代」は小・中学校のときに歌った覚えがあるかな。天皇を讃美した歌といったが、別の国歌だったらいいか。日本を象徴する歌ならいいのか。国歌・国旗はないほうがいいのか。アメリカみたいな国歌があってもいいのではないか。

藤村 「君が代」については、議論がありましたね。「君が代」というのは本当は合わないのですね。無理に合わせようとして「君」を「あなた」という意味にした

りした。本当は天皇だから、今の世にはそぐわない。(注記1)

藤川 新しい国歌があってもいいのではないかなと思う。が、「君が代」は歌いたくない。そうすると(新しい国歌が)あってもいいのじゃないか。日の丸も、軍艦旗はあまり好きではない。「日の丸」も象徴でしかない。何らかの道具に使いたくないが、「日の丸」はあってもいいのではないか。

藤村 昔、日の丸は「白地に赤く、日の丸そめて、ああ美しい日本の旗は」という歌があった。白地は宇宙。太陽は天皇。だから日の丸もふさわしくないと考えた。

河井 「日の丸」ははじめ島津藩が使ったともいわれている(注記2)。それから「日出るところの天子、日没するところの天子」に書をいたす。つつがなきや」という手紙もあった(注記3)。あのときは「日本」の場所を「日出るところ」といったのであって、「天子」と「日」が同義だったわけではなかろう。大日本帝国が「日」と「天皇」を同義語と宣伝して「日の丸」を侵略戦争の旗印につかったために、本来の意味から逸脱した、とは考えられないか。

稲生 「太政官布告」があるだけだ(注記4)。法律できめたものはない。それを軍艦に使った。

大川 私は祭日に国旗を立てる。もう一軒のひとも立てる。気が引ける。通る人が珍しそうに見て行く。もう立てるのをやめようかと思う。

河井 うちの近所の家では立てている。

井原 国旗をたてる人が少なくはなっていきますかね。

藤川 自衛隊とマリン(米海兵隊)が、基地の中の朝礼で「君が代」をかけるのが聞こえるものだから、やっていると思う。

岩田 私は国民学校の3年生が終戦だった。奉安殿の前で最敬礼した。君が代には抵抗がある。自分からは君が代は一切歌っていない。日の丸は昔の軍隊が使って、抵抗はないが、オリンピックや体育祭などで使っている。国旗は使ってもいいのかと思う。君が代は歌う気がない人に歌えとはいわない。

稲生 国旗は日本の侵略の象徴となった。天皇を中心とする象徴となった。だからいけないのだという。国旗や国歌はほしいのだが、いまのままでいいのかという議論になる。

井原 戦後生まれと違う。われわれは知識

でしかない。実体験がない。君が代も後になって今の国にふさわしくないと考えたが、それほど大きな抵抗はなかった。

姫野 私も卒業式、入学式なんかへ議員として行くが、お父さん、お母さんは(国歌を)歌わない人がほとんど。逆に子供たちは、徹底的に歌えと指導を受けているのか、ものすごく大きな声で歌う。今は歌いなさいよと、管理職、教師に言われているのでしょうか。以前自分の子供の小学校のとき、ある年生が国旗掲揚のとき、国旗にくるりと一斉に背を向けた。田舎の学校だったから、みんなが驚いたことがあった。「あれは軍を讃美するものだから歌うな、背を向けろ」と先生にいわれ、そのとおりにしたそうだが、幼い生徒にはそれはそれで問題かと。国旗に向かって立つのと、背を向けて立つのとどちらがいいとはいえないが、生徒の受けている教育が生徒の態度に反映しているのだなと感じた。

田村 「日の丸」とか戦前教育を、あえて戦前回帰の形で行政、国がやっているということで、最近思った。私は劇団「のんた」をやっている。文化とスポーツを行政としてどうしているかで気になっていることがある。岩国市は機構改革のなかで、市行政の中のスポーツと文化を全部市長部局に移すという流れがある。教育委員会が統制している文化とスポーツを全部市長部局が担当する。山口県は十年前からやっているんですよ。県の生活環境課、県の文化振興課、演劇協会の窓口は文化振興課だ。全部首長が教育・文化に関することを自分の配下において、教育委員会が民主的にやっているのを、市長が意のままにやる。おそらく体育大会では日の丸をみなきゃいけないとか、岩国市で芸術都市宣言も、全部自分の配下におさめたい、市長部局にもってきた

いと考えている。

井原 それは法律改正がなくてもできるのですね。教育でないからできるのですね。

姫野 学校教育以外はできる。

井原 教育以外ならできるというのか。教育を市長部局へもってくることはできない。

田村 スポーツ振興課は市長部局ですよ。

河井 社会教育も教育委員会をはなれるのか。

姫野 でも社会教育法があるから。

田村 県は生活環境担当部門へ入れている。

井原 すごい大きいことですね。

稲生 国に言うところの総務省の形ですか。

田村 文化庁は独立しています。

井原 文部科学省が文化もやってはずですよ。それを地方では違うやりかたにする。

田村 生活環境や公害などもはいる。

姫野 きのう「平和をつくる子供たち」という集会があり、東京女子大の竹内ひさのり先生の話がされた。日曜9時からの「空飛ぶ放送室」というテレビ番組では、「自衛隊は軍隊でしょう」というキーワードが飛び交う。若手の俳優たちをキャストにして軽い感じでやっている。映画も「図書館戦争」とか、渋谷の大型ビジョンで、白日堂々と軍隊の募集などが放送されている。私たちのようにおじいちゃんから戦争体験をきくことがない若い世代は、「なかなか制服がかっこいいね」、「戦争がおこったら三度ご飯がたべられていい」という人が出てくる状況。若い人は何が本当で、何がかっこいいのか、大事なことがわからないようだ。戦争体験がないからか？戦時中の話や絵を見てから小学生がかいた絵を、今の小学生がみて、そこから昔大きなことがあったということを共感し考える取り組みもある。そのへんの手当て、今後もやっていかないと、ただ「国語、算数、理科を

もっとやれ」という教育になってしまう。今はそういう現実だということを知りやすく話して頂いた。

井原 戦後世代の私たちとしては、今日の話はひどく参考になった。こんなにきちんと戦前の話しを聞いたのは初めてだ。よく実態が具体的にわかったような気がした。自分が軍国少女になったということだが、今の藤村さんからは考えられないことだ。いままでも漠然と多くの国民が一方向的に流されてきたのは、おそろしいことと思っていた。そういう時代になれば、そういうことがあるのかと思うが、本当にそのように軍国主義に流れていくのだろうか、少し懐疑的なこともある。どうして見事に軍国少女になったのか。

藤村 生まれたときから父が軍国教育をしていた。天皇陛下のために、ということをおかしい時からたたきこまれると、少しおかしいことがあっても、いやそんなことはないと思う。だからオウムが笑えない。でも兄はちがっていた。だからお前はバカじゃったといわれる。私よりも真実を知っていた。丙種だったから。上司が日本は負けるか、と聞いて、負けますと答えて、ひどく殴られた。兄は全然洗脳されてなかったです。わたくしより9つ年上でした。旧制高校のときストをしたそうです。

井原 情報とか新聞とか、教育とか、ほとんどが軍国主義の環境にある中で、本当はそうではないんだという情報がない。自分で仕入れたり考えたりしなければ冷静にはみられない。

藤村 兄は戦後はくるっと反対になった。わたくしが軍国少女をやめたら、兄は反対になった。

井原 徴兵を逃げた人、冷静に考えた人もあったでしょう。しかし多くのひとはそういうふうにならなくなっていった。

ふしぎだと思うのと、こわいなというのと。

藤村 兄は自分で会社を経営した。それで生きてきたのでしょうか。兄の友達がエイズで問題になった安倍教授だったのです（注記5）。弱者の立場に立たず、上の立場に立つ。考え方は境遇によって変わる。

井原 今憲法改正がいわれている。戦後に憲法ができ、教育基本法ができ、洗脳から解けた。そのときの全国的にそうだったのであろうが、その時の高揚感がどんな感じだったか。

藤村 ふところに剣を忍ばせて人に対するのと、素手で対するのと、どちらが平和的か考えてみるまでもないだろう、と文部省が言った。文部省の説明がです。うれしくなりますよね。

井原 国中がお祭りさわぎだったのか。

藤村 お祭りだったかどうかわからないが、よかったなと思った。新しく選出された女性議員が多くなった。そのときに憲法と教育基本法きめられた。国会の中でも半年間論争をくりかえして満場一致できめたことだ。この憲法はアメリカからもらったものだからといって、自分の都合のいいようにしようとしている。国民がそれに気がつかなくてはいけない。なかなか気がつかないというのは嘆かわしい。さきの選挙で自民党を勝たせてはいけないから、私は原発をなくするという人を応援したのですが、みんな口では原発はいやだというのです。そう言いながら原発を推進する人に票を入れる。あれがおかしい。

井原 戦前から戦中、戦後と生きていらっしゃる。私の親もそうですが、日本の歴史の中で、経験したことのないことを体験された。すごい体験で、安倍の前で話しても何の意味もない。それより、若い人に今日のような話を伝えられたら

効果がある。いろいろ機会をもたれるといい。

藤村 でももう遅いんです。認知症ですから。

姫野 憲法を制定した議会の選挙のとき、女性候補者79名のうち39名が当選した。

小原 藤村さん、いいお話を聞かせていただいて、有難うございました。私は岩田さんとおそらく同年輩です。昭和13年です。私は戦中派です。終戦の時は小学校2年だったが、藤村さんと同じ気持ちにさせられた。今大事なことは、今の子供たちに正しい歴史の認識をいかに伝えられるかだ。このままではわすれてしまう。久賀の文化振興会で歴史を学ぶことをやっている。久賀の神社仏閣や人物、歴史について学ぶ。ぜひ学校で子供たちに経験者である藤村さんの話を聞かせる場を作っていくべきだ。大島でも、町長、町議に話をして藤村さんに・・・。

藤村 ハア、大島では全然だめです。（とてもその場は作ってもらえないだろう、の意味）

小原 立派なリーダーを作り、地域の歴史認識のありかたについて、一緒になってみんなで考えていく。地域でいい成果があがったら、すぐひろまる。よそからも始める。夢をもってやっていったら。ただ話を聞いただけではもったいなく思う。歴史を知ってもらわねばというのが今日の印象である。

姫野 「平和を作る子供たち」という会の行事案内が中国新聞に大きく出たが、昨日来た人は3人、後に呼んでやっと6人。学校、校長にお願いし、また東京女子大の教授を招いたのに。学校側は平和学習を大事とし、教えた先生もいるのだが、思想的なことを学校でやるのを好まない管理職や風土がある。岩国ではデリケートで、スイッチのオン・オフがすぐかか

る。いいことだからやってほしいという人が多ければいいのだが、「慎重にやれ」とか「やらないほうがいい」などといわれると、そのチャンスがつぶれてしまう。ガードがかたく、壁が高く、意図的に平和学習を制限する方向へもっていこうという流れもあるなかで、心を痛めている人もいる。

河井 この会の目的は「市民の政策を持つ」というスローガンにあるとおりで、昔はこうだった、これを二度とくりかえしてはいけない。そのためにはこれから何をしたらいいと思うか。

藤村 トップがいけないからですよ。

河井 そのトップを変えるのが大変です。

藤村 みんなが賢くならなければと思う。

河井 みんなが賢くなるのも大変です。選挙すれば、軍国主義的な政党に多数票が集まるのですから。

小原 可能性はあるから、小さいところから議員、政治家を選んでいく。利権がらみで欲のある、自分の政治生命を維持するためなら何でもやるような、そういう政治家は排除する世の中になっていただきたい。

河井 藤村さんの話をききながら、国家権力が大変なことをやったのだなと思った。今の時代もそうではないか。民間企業人にはかなり洗脳されたワンパターンの思想がある。僕らはそういう世界にはいていないから思うのかもしれない。僕の弟などとも話が合わない。アベノミックスに乗りつつある思想ではないか。国家権力でなくても洗脳できるのではないか。洗脳されているのではないか。

姫野 新聞やインターネット、テレビで有名な思想家が、経済中心の思想にもっていこうとし、法律を変えようと考えている。彼らがメディア、メール、新聞とかを使って流して、無料配布して、知識人

にとどけられる。「平和」など生やさしいことを言っても、「攻め落とされたらどうするのか」などと思いこんでいるから、いきなり返ってくる言葉が水と油になる。そういうときは言葉を選ばないと。兄弟でも。

稲生 文化とか体育は総務関係や市長部局へかえられている。統制をめざしていると考えなのか。藤村さんの話の中で国民保護法、ガイドライン法とか、マイナンバーとか、どんどん出され、着々と統制がすすんでいる。

藤村 言葉たくみにすすめるからね。集団的自衛権でも、日本を守ってくれているアメリカがやられているのに日本は手をこまねいてみていいのかという。

田村 卒業式にでる。中小生徒にはワクを外れた子がいない。全員いい子です。昔は茶々をいれる子もいたし、姿勢の悪い子もいた。校長室にたちよって感想を聞くようにしていたが、最近はしない。「いい式でした、生徒がおとなしくて」。悪い子は休ませているのじゃないか。お宅へ卒業証書を持って行っているのではないか。全員いい子だ。それが国歌の統制の流れと一緒に。ワクから出た子はダメです。

井原 藤村さん、これ自分でワープロを打たれたのですか。誰かに打ってもらったんですか。

藤村 はい。

井原 文章にされてはどうですか。今日話されたようなことを小さな冊子にされたらいい。今日の話も丁寧にテープ起こしたら、いい文章になると思う。

稲生 法律なんかについての説明がユニークである。内容もおもしろい。

井原 われわれが援助してもいい。出版したら。みんなに配ったり、図書館に寄贈したりしている人もいる。いろんな人が

よんでくれる。これだけ言葉があって、
いろいろな実体験をもっていらっしゃって、
さっきの歌もあまり知られていない。

藤村 昔はしょっちゅう歌っていた。がら
がら声になったのは歌ったから。今でも
歌えますよ。

井原 軍歌はカラオケにあるが、今のような
歌はない。

姫野 歌詞などは戦後に燃やしたり、回収
された。おかしいと思った人が大事に保
存していたものが、今頃出てきている。

藤村 731部隊の人体実験も、戦後に証拠
隠滅して、731の人は内地にひきあげた。
都合のいい情報などは持って帰った。安
村さんという人がいる。出身は萩のひと。
大きな自宅だった。731の人たちが泊め
てくれときた。食糧はいらなないといっ
て、米やらなんをいっぱい持ってきた。あ
れが731部隊だったと話していた。とに
かく証拠隠滅していち早く帰って来た。満
蒙開拓義勇軍として、山口県から行った
人はわりと早く帰った。山崎智子さんか
らきいた話だが、隊長としてつれてい
った方が百姓をしておられたそうで、普通
は日本人が土地をとりあげたのだが、向
こうの農民がこの土地をとらないでとい
ったので、隊長は、わたくしも農民だか
ら気持はよくわかるといっ、土地をと
らないで、荒地を開墾した。それで終
戦後、土地のみんなが早く返してくれた。
早く帰ったのですよ、その部隊は。

稲生 ぜひまとめあげたら面白い。ナマの
体験として語るといい。1945.8.15の体
験を語るという本にしてくだしている。も
うなくなる。こういう体験が貴重だと思
う。書いて頂きたい。今いわれたような

ことは、毎日新聞社の『1億人の昭和史』
(1970)の中にも少しのっている。

藤村 従軍慰安婦のことも極秘のこととし
て出ている。

稲生 これから議論としてやっていきたい
課題は、演説Ⅰ、Ⅱで得られた検討課題
もあるが、それに加えて国歌・国旗の問
題。国家統制の問題、それについてのみ
なさんの意見もある。ただたんに語るの
でなく、市民の政策の課題として討論し
ていけるといい。個人演説Ⅰ～Ⅲまで出
てきた。自由討論のなかで出てきた議論
も含めて、自分はこの問題について話を
しようということをお願いするといっ
いい。たとえば安保をもっと深く解説し、
意見をのべようという人がいたら、お願
いしたい。

井原 憲法96条のこともいれるといっ。

藤村 今はアンケートでも憲法を改正する
という意見が多くなったが、内容を知ら
ないで言っている。内容を知らせなけれ
ばいけない。

井原 「憲法をとりかえすのだ」などい
うのはごまかしだ。受けのいい言葉で言
っている。

稲生 次の演説について。

河井 艦載機59機のことを検討課題にあ
がっていない。それはやらなくていいこ
となのか。59機はやってもしかたがない
という空気もある。

稲生 それにふれていないだけだ。

河井 個人演説のテーマは、あげられてい
る検討課題に限定しないで、自分のやり
たいテーマをとりあげてやるほうがいい
場合もあるだろう。

注記

1. 君が代 「(一)大君ノ、国ヲ治メタマ
フ御代。聖代。和漢朗詠集、下、祝「君

が代ハ、千代ニ八千代ニ、細石<サザレイ
シ>ノ、巖トナリテ、苔ノムスマデ」此

ノ歌ノ本歌ハ、古今集、7、賀ニアリテ、初句ハ「我ガ君ハ」ト見エ、6帖、4、祝ニハ、初句、2句ヲ「我ガ君ハ、千代ニマシマセ」トアリ。(二)大日本帝国の国歌の称。『新訂大言海』「きみがよ」

「日本国歌として歌われている歌曲。歌詞の原型は「古今和歌集」賀の部に「わがきみは」、「和漢朗詠集」には「きみがよは」の初句で、いずれもよみ人知らずで登載されている。同じ歌詞が俗楽では隆達節（江戸初期）、箏曲、地歌、長歌（江戸中期以後）にあり、祝賀用である。古今集時代の「きみ」は主人、家長、友人、愛人などを意味する二人称、三人称で、幅広く使われ、隆達節のような遊宴歌謡にまで伝えられたのも、この表現が国民感情に受け入れられやすかったからであろう。・・・曲は文部省告示の「小学校祝日大祭日歌詞並楽譜」の冒頭に処載された林広守の曲が定着。『日本大百科全書』6「君が代」

2. 日の丸「日章旗ともいう。わが国では古くから軍扇などに使用されていたが、江戸幕府はそれを船印として城米輸送の廻船などに用いた。幕末に到り、対外的にもわが国の国旗を明確にする必要から、薩摩藩主島津斉彬らの意見をいれ、1854年（安政1）「日本総船印は白地日の丸幟」を定めた。明治政府も国旗を定める必要から、70年（明治3）太政官布告第57号で商船規則を制定し、「御国旗」のデザインや企画を示した。『日本大百科全書』19「日の丸」

「島津斉彬は、洋式帆船建造を行い、薩摩藩の旗とともに「日の丸」を掲げた。当時、日本には国旗がなく、「外国船と日本船を区別する目印が必要だ」と島津斉彬が幕府に提案し、安政元年（嘉永7年、

1854年）7月、日の丸を幕府は「日本惣船印」と定めた。翌1855年（安政2年）薩摩藩が建造した昇平丸が江戸に入港した時に初めて我が国の船印として日の丸が揚げられた。日米修好通商条約に調印した翌年、安政6年（1859年）に日の丸の旗を御国惣印と定めた」。

http://www.karukan.com/pc/029_hinomaru.html (2013.6.10 現在)

「1855年（安政2年）、島津斉彬は洋式軍艦「昇平丸」を幕府（幕府海軍）に献上するが、このとき初めて日章旗が船尾部に掲揚された。これが日章旗を日本の船旗として掲揚した第一号である。『ウィキペディア・フリー百科事典』「日本の国旗」(2013.6.10 現在)

3. 「日出るところの天子」 「607年、第二回の遣隋使が派遣された。・・・有名な「日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す。恙無きや、云々」（『隋書』倭国伝）という国書を示して、煬帝の不興を買ったという事件はこのときのことである」。 (西島定生「6-8世紀の東アジア」『岩波講座日本歴史 2 古代 2』p.249) ちなみにドイツ語では「東洋」を「朝の国 (Morgenland)」、「西洋」を「夕の国 (Abendland)」という。
4. 「太政官布告」（だじょうかんふこく、または、だいじょうかんふこく） 明治初年、法令を国民一般または特定人に周知させるための公文書。『広辞苑』
5. 安倍英（あべ たけし） 山口県出身。旧制山口高校、東京帝国大学医学部卒業。帝京大学副学長。厚生省エイズ研究班班長。非加熱製剤の使用継続を決定。帝京大学医学部附属病院で血友病の男性患者が非加熱製剤を投与され、HIVに感染し、エイズで死亡したとされ、業務上過失致死事件で起訴されたが、東京地方裁判所

で無罪判決。『ウィキペディア・フリー百科事典』など（2013.6.10 現在）

発言者（逆 50 音順）

藤村英子（ひでこ）	周防大島町下田	河井弘志	周防大島町日前
藤川俊雄	岩国市平田	大川恵美子	周防大島町下田
姫野敦子	岩国市川西	岩田政弘	岩国市由宇町
田村順玄	岩国市牛野谷町	井原勝介	岩国市今津町
小原 勇	周防大島町久賀	稲生 慧（あきら）	岩国市岩国

「市民自らの政策を持とう！ 第3回個人演説会」の記録は、次のブログに掲載されます。

<http://blog.goo.ne.jp/simin13401seisaku>

演説 I・II・III・IV および自由討論から得られた 検討課題

「市民自らの政策を持とう！」という呼びかけのもとに、これまで3回の個人演説会が開催され、現在私たちが直面している政治的、社会的問題について、それぞれの弁士が、全く自由な立場で見解を語り、参加者がそれぞれ率直な意見をのべました。

しかし意見を並べただけでは何の意味もないので、「市民自らの政策」にまとめるためにどう考えるべきか、今後の個人演説会と自由討論のなかで、しっかり討議していきたいと思えます。

以下にこれまで提示された検討課題の要項をあげておきますので、ご参考になさってください。

- ① 安保、日米地位協定の問題
 - ・ 憲法 9 条と自衛隊の専守防衛、集団的自衛権の問題
 - ・ 米軍基地の管理権
 - ・ 自衛隊は軍隊か その存在意義について
 - ・ 艦載機 59 機移駐、オスプレー配備と低空飛行訓練について
- ② 原発の存在意義
 - ・ 要、不要のこと
 - ・ 使用済み核燃料、放射性廃棄物、汚染水 などの処理技術
 - ・ エネルギー政策
- ③ 議会制民主主義について
 - ・ 議員選出（国会、県議会、市議会など）の在り方
 - ・ 議会の機能

- ・ 住民の意思表示としての住民運動の働きとは
- ④ 憲法 96 条、憲法の改正問題
- ・ 国旗、国歌の是非
 - ・ 文化、教育についての国家の介入と統制について
- ⑤ その他 議論の過程で出されたテーマ
-

「市民自らの政策を持とう！ 第 4 回個人演説会」の予定
弁士 井原勝介さん（元岩国市長）
テーマ 政治を変える

世話人

河井弘志 742-2804 周防大島町日前 1039 Tel:0820-73-0198

稲生 慧 741-0062 岩国市岩国 4-9-8 Tel:0827-43-4150